**浅草橋と神田川**

神田川は、東京西部の三鷹市から流れる長さ約25kmの川で、両国橋からほど近い浅草みなみ地区で隅田川に合流します。旅行、運送や漁に加え、一部が人工の神田川の水道は、江戸城の濠の水や江戸の住人の飲み水を供給していました。

浅草橋から柳橋までの神田川沿いの浅草みなみ地区には、かつて栄えていた花街がありました。遊覧船が運河に沿って係留され、趣味の釣りにビジネスチャンスを見出した人の中には船で釣った魚を調理してお腹を空かせた客に提供する者もいました。他の常連客は、この地の料亭に行って軽食を取り、飲み物を飲み、花街でのもてなしや文化を楽しみました。現在では、この地域は非常に平穏で、柳橋の近くに係留されている船は、主に乗客を乗せて隅田川を行き来する小さな遊覧船です。

浅草橋は元来、江戸への主要な玄関口のひとつで、ここには江戸城を防御するために建てられた36の見張り場のひとつ、浅草見附があり、侍が旅人を検問していました。この地域に多くある問屋の倉庫にはかつて、浅草寺へと向かう観光客に商品を売る行商人がよく仕入れに立ち寄っていました。隅田川に並行して走る大通りの江戸通り沿いには人形や玩具店がひしめいていましたが、その中には今日でも営業しているところがあります。